

第78号  
2022

# Hello

we are NVLU

シン・日本獣医生命科学大学



※対面授業も増えた新年度。学生の姿も多く見られるようになりました。

**P4 ニチジュウの新体制**

**P8 【特集】ニチジュウの特色ある新しい取り組み**

- ・学修成果の見える化。
- ・学生サポートの取り組み強化。
- ・シェルターメディスン教育の推進。
- ・「愛玩動物看護師」国家試験に向けて。
- ・食品大好きプロジェクト、進行中！
- ・生まれ変わる、付属牧場。

**P14 Congratulations on the AWARD!!**

紫雲賞 / 梅野信吉賞 / 武蔵野賞

**P16 【連載】スペシャリストへの道**

- ・食品科学科2年次 吉留瑞貴さん
- ・武蔵野国どうぶつ医療センター 奥貫真梨子さん(2010年3月獣医保健看護学科卒業)

**P18 【News Topics】ニチジュウCAMPUS NOW**

# CONTENTS

# Hello

we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言で表すと「Hello」。獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼びかける必要があるのです。

今回の大学報「Hello, we are NVLU」のテーマは「新(シン)」と聞き、新型コロナウイルスへの対応も、私たちは「新たな一歩を踏み出す取組み」が必要である、その「新」をすぐに思うに至りました。昨年度まで、私たちは様々な感染防止対策を実施しており、学生にとっては大変窮屈な2年間であったと思います。学外実習の見送りやクラブ活動等の自粛、まさに大学生になつたと実感できるアクションに対して、中々踏み切れずにいました。

令和4年度は、一気に緩めることはできませんが、感染防止対策への取組みは当然、行うにしても、学外実習等対面での教育や部活動を条件付きで実施していく方針を固めております。そのためにはこの大学に集い、生命科学を学ぶ、教える、研究する学生、教職員等が、感染防止に高い意識と自覚を持って行動することを引き続き、強く求めます。

さて、令和4年度の日本獣医生命科学大学の基本方針は、令和2年度、3年度から引き続き、「日本獣医生命科学大学に集う全ての力を結集」と定め、7つの重点事項を設定いたしました。昨年度に完成した「中

長期計画(第2期)」の実現に向けた取組みの推進と共に、令和4年度の基本方針に基づくこれらの各項目の実現のため、ニチジュウに集う様々な力を結集して、力強く進めてまいり所存です。ご協力をお願い申し上げます。

#### 【令和4年度の重点事項】

1. 機関別認証評価の受審と獣医学教育評価の受審に向けた準備を推進する。
2. 入学定員及び収容定員の確保に向けた取組みを継続する。
3. 4学科の特色ある教育の推進とICTを活用した学修環境の整備を継続する。
4. 生命科学総合研究センターの特色ある研究分野の取組みを推進する。
5. 多様化する学生の支援体制を整備する。
6. 動物医療センターの管理運営の強化、並びに富士アニマルファームの拡張及び利活用を促進する。
7. 安心安全なキャンパスの整備を継続する。

# ニチジュウの新体制

日本獣医生命科学大学  
学長 清水 一政

## 獣医生命科学研究科長 鈴木 浩悦

この度、大学院研究科長を拝命しました鈴木です。昨年度までの2年間、教務部長としてコロナ禍での学部教育の整備に当たりました。今年度から引き続き清水学長を補佐しながら、ポストコロナにおける大学院教育の充実に尽力したいと存じます。本学大学院は獣医学、獣医保健看護学、応用生命科学の3専攻に総勢70名の教授・准教授陣を配し、様々な領域に渡って質の高い研究と教育を行っています。近年、大学院教育においては、プログラムに基づく体系的教育、学位授与の円滑化と公表、多様な学修歴を有する学生への対応、大学院生に対する経済的支援が求められており、本学では既にその多くに取り組んでおります。しかし、急速に変化する時代に対応できる、より優れた研究者、教育者、専門職従事者を輩出するためには、学内の専攻や研究室の垣根を越えた研究指導や学外連携の強化が必要だと思っております。未知の発見をしたい、病気の治療法を開発したい、人類の幸福に貢献したいと言う純粋な気持ちに答えることのできる大学院教育の実現を目指して努力したいと思っております。ご協力をお願いします。

令和4年度から獣医学部長を務めさせていただきます。これまで獣医学科長として獣医学科をまとめる役割でしたが、今後は獣医学科だけでなく、獣医保健看護学科とともに学部将来構想を練る役割があります。というのも、近年の少子化と全国的な農学部離れによる受験生の減少に本学も直面しているからです。いかに獣医学部の魅力を発信していくかが重要になりますが、本学の教育・研究における魅力について、広報を通じて幅広く発信していかなければなりません。

獣医学科の新たな取組みとして、非生体を活用した実習やシェルターメディスン教育の導入など今年度、推進していく予定です。また、獣医保健看護学科においては令和5年2月に予定されている愛玩動物看護師国家試験を受験するために、いよいよ本格的に対応しなければなりません。これらの課題を学部一眼と成り切ろうと思っておりますので、教職員の皆様のお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

## 獣医学部長 田中 良和



近年、18歳人口が顕著に減少しており、多くの大学で優秀な受験生の確保が喫緊の課題となっております。応用生命科学部でも、この問題を最重要課題と捉え、新年度も本学部の魅力が受験生に伝わるよう、広報活動に全力を尽くす所存です。ホームページの充実、学部ブランド商品の開発、教職員の高校訪問やマスコミ取材対応など、様々な手段を講じて広報活動を展開してまいります。一方、学生に対しては国や民間の資格（実験動物一級技術者、HACCP管理者など）取得のためのカリキュラム改編や試験対策相談会の開催、早期ゼミ制度の充実化、時代に即した新たな授業科目の開設など、学部の魅力づくり、特色づくりを進めており、新年度も引き続き実施してまいります。また、学校推薦型選抜や総合型選抜の定員枠の拡充など、入試の見直しも図ってまいりたいと考えております。加えて、学部・学科の新しい体制の構築に向けた検討も本格的に実施する予定です。

**応用生命科学部長  
藤澤 倫彦**



コロナ禍が3年目を迎えました。学部・学科を問わず、勉学以外の学生生活の全てをサポートする学生部では、過去2年のコロナ禍で得た経験を今年度に十分に活かしたいと考えています。

入学式・卒業式は、それぞれ「この大学の一員になったんだ」、「私はこの大学を卒業したのだ」という心に区切りをつける不可欠な行事です。今後は、この2つの行事は「挙げる・しない」ではなく、「どうしたら挙げてできるか」だけを考えてしたいと思います。

部活動・サークル活動は、学生にとって勉学と同じように大切なことです。都内での感染者数・重症者数を注視しながら、かつ適切な感染対策を指導しながら、できるだけ活動をサポートしたいと考えています。

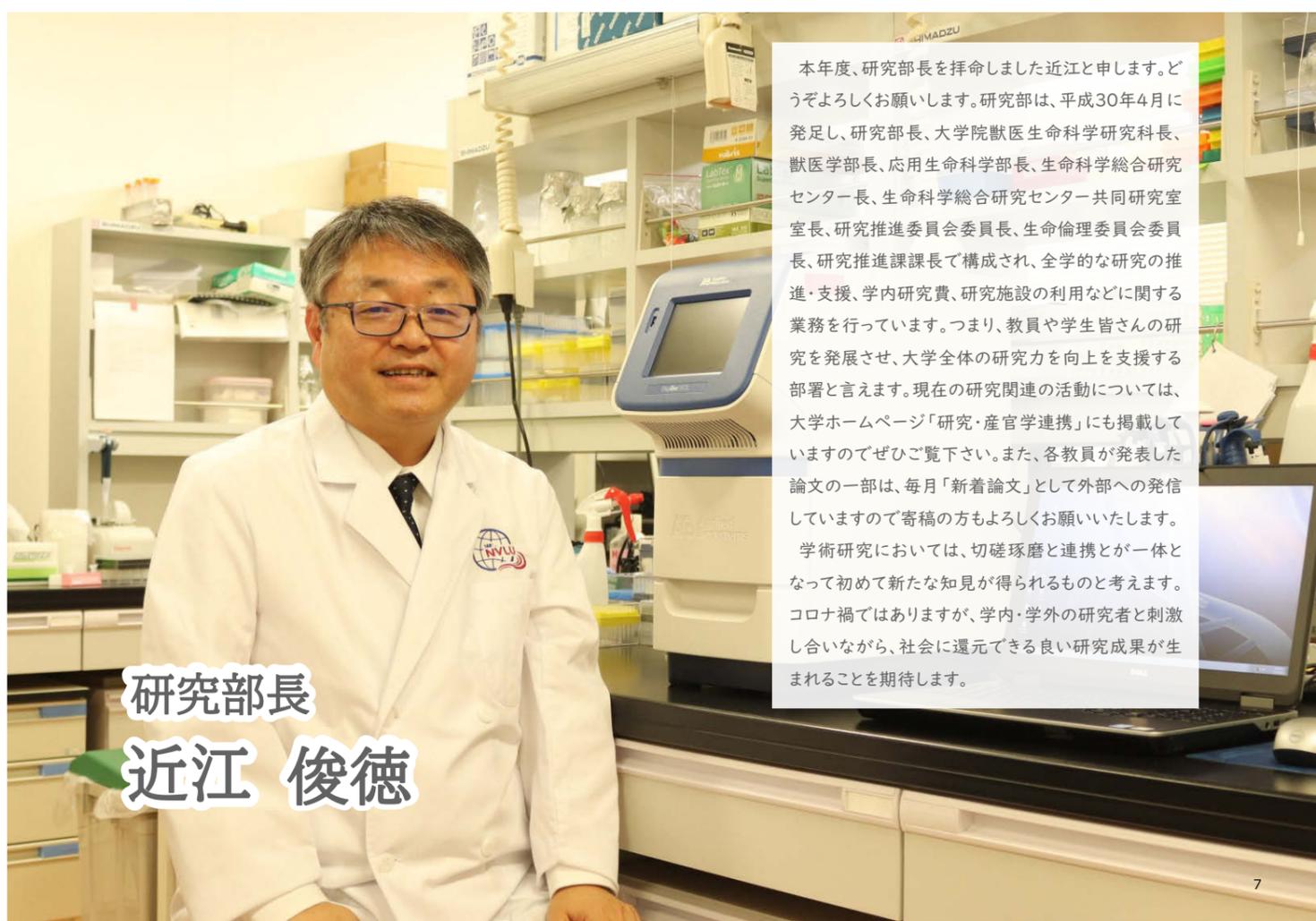
本学でもコロナ禍にともなって修学意欲が低下した学生が散見されます。この問題に対しては、退学する学生、そして留年する学生がゼロになることを目標に、学生部のみならず教職員が一丸となって力強く対応する所存です。

**学生部長  
竹村 直行**



コロナ禍にあって、本学の学生の皆さんには大学生活に不安と不満が先立つ状況が続いている事を心苦しく思います。しかしながら、その様な中においても本学の教員は大学教育のパフォーマンスを確保すべく、講義様式の改善に努力と工夫を継続しています。また、本学は実学をその教育理念の基礎としており、演習・実習に関しては可能な限り少人数・短時間とした上で対面形式での実践を続けて参りました。本学の教育の現状はまだまだ至らない部分が残されているのも事実ですが、新年度は講義・演習・実習に関してさらに満足度が向上する様、教務部として大学全体のカリキュラムをしっかり点検し、学生の皆さんのICT環境に配慮した教育の充実を目指したいと思います。また、このような世情だからこそ盛んになったと言える、ICTを活用して遠隔地を結んで実施される教育・学術的な試みも取り入れて、学生の皆さんの視野が広がる環境を整備したいと思います。

**教務部長  
和田 新平**



本年度、研究部長を拝命しました近江と申します。どうぞよろしくお願いいたします。研究部は、平成30年4月に発足し、研究部長、大学院獣医生命科学科長、獣医学部長、応用生命科学部長、生命科学総合研究センター長、生命科学総合研究センター共同研究室長、研究推進委員会委員長、生命倫理委員会委員長、研究推進課課長で構成され、全学的な研究の推進・支援、学内研究費、研究施設の利用などに関する業務を行っています。つまり、教員や学生皆さんの研究を進展させ、大学全体の研究力を向上を支援する部署と言えます。現在の研究関連の活動については、大学ホームページ「研究・産官学連携」にも掲載していますのでぜひご覧下さい。また、各教員が発表した論文の一部は、毎月「新着論文」として外部への発信していますので寄稿の方もよろしくお願いいたします。

学術研究においては、切磋琢磨と連携とが一体となって初めて新たな知見が得られるものと考えます。コロナ禍ではありますが、学内・学外の研究者と刺激し合いながら、社会に還元できる良い研究成果が生まれることを期待します。

**研究部長  
近江 俊徳**

# ニチジュウの特色ある 新しい取り組み

## 1 学修成果の見える化。

### 「学生ポートフォリオ」で、自分の学修成果がひと目で分かる

5月に、「学生ポートフォリオ」が導入されました。「学生ポートフォリオ」は現在の「学修支援システム」に紐づいています。そのため、自身の単位取得状況や成績、ディプロマ・ポリシーの達成度等、学修成果がひと目で分かるようになっていきます。

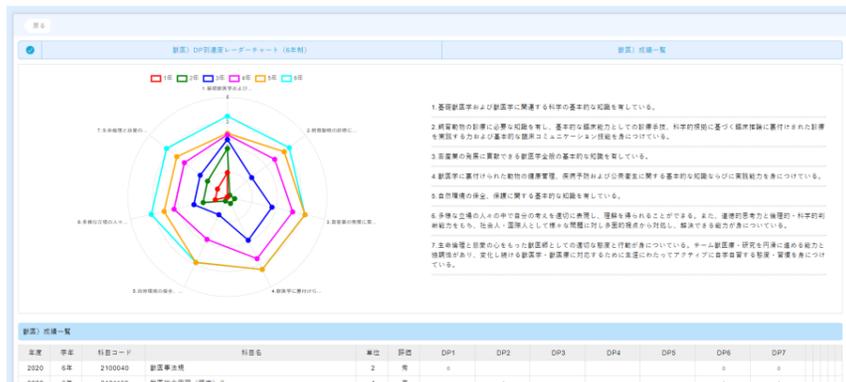
#### ディプロマ・ポリシーとは？

大学が教育理念に基づいて定める「卒業認定・学位授与の方針」のこと。  
学生の学修成果の目標となる。



ニチジュウのディプロマ・ポリシー▶

### ここを見れば分かる！「学生ポートフォリオ」



### どの科目がどのディプロマ・ポリシーに値するかが分かる！

どの科目がどのディプロマ・ポリシーに当てはまるのか、ひと目で分かるようになりました。

### レーダーチャートで到達度が一目瞭然

成績が反映されると、レーダーチャートが表示されます。各科目の成績や履修選択によって、その人の強みが可視化される仕組みになっています。

### より便利な「学生ポートフォリオ」を目指して

#### 「提出物の締切が分からない！」を無くす

現在、提出物の締切等の情報は「学修支援システム」から1科目ずつ見ないと分からないようになっています。今後はそのような「不便さ」や、「締切がいつか分からない！」という状況を解消するため、提出物の締切が一覧で見られるようなシステムが「学生ポートフォリオ」の中に構築される予定です。



## 2 学生サポートの取り組み強化。

### 新しい学生サポート体制

4月より、学生相談室長と保健センター長が変わり、新たな体制となりました。

#### 学生相談室



学生相談室長 植木 美希 教授

学生相談室は、学生の皆さんが講義や実習、部活動、友人関係など、学生生活を送る上で困難だと感じた場合に相談できる場所です。どうぞ気軽に訪問してください。どうすればあなたの問題を解決できるか、一緒に考えていきましょう。

#### 今後の取り組み

- ①長期休暇中もカウンセリングを受けられるよう、学生相談体制を強化します！
- ②今年はワークショップを対面で企画中！大学ポータルでお知らせします！

#### 保健センター



保健センター長 落合 由嗣 教授

4月より保健センター長となりました。私は獣医学科で公衆衛生学の教育・研究をしています。公衆衛生学とは、人の病気の予防や健康増進を目指している学問です。獣医師は動物の病気を専門としているイメージが強いですが、人の病気の予防に対しても大きく貢献しています。常駐看護師の馬場さんや校医の先生とともに、学生の皆さんが心身ともに健康な状態で生活を送ることができるよう支援していきたいと考えています。

### 助け合ってともに学ぶ

#### 配慮を必要としている方へ向けた「チューター制度」

本学では、令和3年度より「チューター制度」を導入しています。「チューター制度」とは、配慮を必要としている方に対して、学生等が学生生活をサポートする仕組みです。

#### コロナ禍での特別な配慮

コロナ禍で通学に不安がある方は、「授業配慮」を申請することができます。申請が受理されると、対面授業における配慮が受けられます。

#### サポートの一例

- ・移動、施設・設備利用、支援機器・用具の利用に関する配慮
- ・教材に関する配慮（点訳・電子データ化・拡大・字幕付け・事前配付等）
- ・情報伝達・コミュニケーションに関する配慮（手話通訳・要約筆記・文書伝達等）
- ・定期試験に関する配慮（時間延長、別室受験、解答方法等）
- ・履修登録、学習支援等
- ・学内生活に関する配慮（トイレ、食事等）

## 3 シェルターメディスン教育の推進。

### 地域の動物問題に取り組む、新しい研究分野

シェルターメディスンとは、殺処分に関わる問題、動物虐待、災害時の動物問題など、地域のさまざまな動物問題に取り組む、新しい獣医学的分野です。アメリカでは全獣医科大学で教育が行われていますが、日本ではまだ発展していないのが現状です。そこで、本学ではシェルターメディスン教育体制の確立を目指しています。



シェルターメディスン教育に取り組む田中 亜紀 講師(写真右)と研究室の学生

### シェルターメディスン教育の確立に向けて

#### 今年度からシェルターメディスン実習がスタート！

今年度からシェルターメディスン実習がスタートします。シェルターメディスン実習では、シェルター現場の視察や事例の検討、災害時のシミュレーションなど、実践的なプログラムを予定しています。

※獣医学科の「学外実習(基礎)」の単位として認定されます！

「シェルターメディスン」は、飼い主のいない動物、動物虐待、災害時の動物管理など家庭動物だけでなく、野生動物も含む全ての動物の福祉と公衆衛生に寄与する獣医学です。地域の様々な動物問題に対応するために、研究室一同、日々、奮闘しています。

シェルターメディスン実習を担当！



獣医学科 田中 亜紀 講師

#### 研究しやすい環境づくりの整備

生命科学総合研究センター

「シェルターメディスン研究分野」

令和3年3月1日に、生命科学総合研究センター研究部門に設置されました。

生命科学総合研究センター  
「シェルターメディスン研究分野」  
ページはこちら▶



社会連携講座

「シェルターメディスン講座【日本動物福祉協会】」

令和4年4月1日に、公益社団法人日本動物福祉協会との協働で獣医学部に設置されました。



社会連携講座 木原 友子 助教

#### 社会連携講座とは？

外部機関から提供された経費等を基に、本学と外部機関とが対等の立場で共通の課題について連携して研究するもの。

詳しくはこちら▶



#### クラウドファンディングの実施

「家族のいない犬と猫をしあわせにするプロジェクト」と称し、活動資金を募るクラウドファンディングを行いました。

多くの方のご支援をいただき、無事に目標金額を達成することができました！ご支援くださった皆様、ありがとうございました。

【クラウドファンディング実施期間】

令和4年1月20日～3月16日

【寄付総額】

9,425,000円(目標金額6,200,000円)

【寄付者数】 271人

【今後の活動】

- ・科学的知見を基にした、犬や猫の集団飼養の動物管理ソフトの開発
- ・一時緊急保護場所の整備 等

これまでしあわせになった子たち



※他にもしあわせになった子がたくさん！

クラウドファンディング  
ご支援のご報告とお礼▶



## 4 「愛玩動物看護師」 国家試験に向けて。

### より専門的な知識や高い技術力を持った「愛玩動物看護師」



令和元年6月に「愛玩動物看護師法」が成立し、「愛玩動物看護師国家資格」が誕生しました。国家資格となることで、より専門的な知識や高い技術力を持った愛玩動物看護師の参画が見込まれ、臨床現場におけるチーム獣医療体制が充実し、質の高い獣医療の提供を行うことが期待されます。

令和5年に実施が予定されている第1回国家試験に向けて、本学でも在校生及び卒業生への対応等に取り組んでいます。

### 国家資格化で変わること

#### 「診療の補助」が行えるようになる！

これまでできなかった「診療の補助」が、獣医師の指導の下であれば可能になりました。

#### 獣医師の業務(獣医療)

- ◆ 診察
- ・手術
- ・X線検査
- ・診察等に基づく診断 など

- ◆ 診療の補助
- ・採血
- ・投薬(経口など)
- ・マイクロチップ挿入
- ・カテーテルによる採尿 など
- ※獣医師の指示の下に行う

#### 愛玩動物看護師の業務

- ◆ その他の看護
- ・入院動物の世話
- ・診断を伴わない検査 など
- ◆ 動物の愛護及び適正な飼養に関する業務
- ・動物の日常の手入れに関する指導・助言
- ・基本的なしつけ
- ・動物介在教育への支援 など

#### もっと働きやすく、幅広く活躍できる環境へ

愛玩動物看護師法が成立したことで、「愛玩動物看護師」に似た名称の使用が禁止されました。国家資格化や名称独占となったことにより、愛玩動物看護師のキャリアアップや、愛玩動物の愛護や適正飼養分野への活躍が期待されます。

### 第1回愛玩動物看護師国家試験に向けて

#### 「農林水産大臣及び環境大臣の指定する科目」を開講する大学に認定！

獣医保健看護学科は、令和4年3月4日付で「農林水産大臣及び環境大臣の指定する科目」を開講する大学に認定されました。これによって、令和4年度以降に入学した学生は、本学を卒業することで国家資格の受験資格を得られるようになりました。

現在、第1回愛玩動物看護師国家試験を在校生として受験する4年次学生に対し、一人でも多くの学生が合格できるよう、様々な受験対策を検討しています。  
これからも、本学科では社会に貢献する人材として愛玩動物看護師等の獣医療技術者の育成に努めてまいります。



獣医保健看護学科長  
近江 俊徳 教授

#### 2年次学生以上や卒業生に向けて情報発信！

2年次学生以上や卒業生も、指定科目を修得していれば、講習会を受講することで予備試験なしで本試験を受験できます。詳細は大学ホームページで随時お知らせしますので、ご確認ください！

詳しくはこちら▶

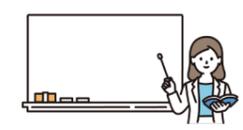


令和4年度以降の入学生



大学卒業(見込み)で受験可能！

平成17年度～令和3年度の入学・卒業生



指定科目を修得していれば、講習会を受けるだけで受験可能！

## 5 食品大好きプロジェクト、進行中！

### 食べる、つくる、研究が好きな人たちへ向けたプロジェクト！

食べることが好き。つくるのが好き。興味がある分野の研究に没頭するのが好き。  
そんな人たちにぴったりの「食品大好きプロジェクト」は、人間が生きるうえで欠かせない「食」におけるおいしさ・安全性・機能性についての科学を学び、社会に役立てることを目的としたプロジェクトです。大きく分けて①早期ゼミ制度の導入、②資格取得支援制度、③入試改革の3つに取り組んでいます。

学科内で早期ゼミ制度の名前を模索中であることを耳にした時、真っ先に浮かんだ言葉が「食品大好き」というワードでした。高校生や入学した学生にとって分かりやすく、早期ゼミ制度への親近感を抱いて欲しいという思いから、とにかくシンプルでストレートであり、可愛らしさもある「食品大好き」がぴったりだと思いました。

「食品大好きプロジェクト」の名づけ親！

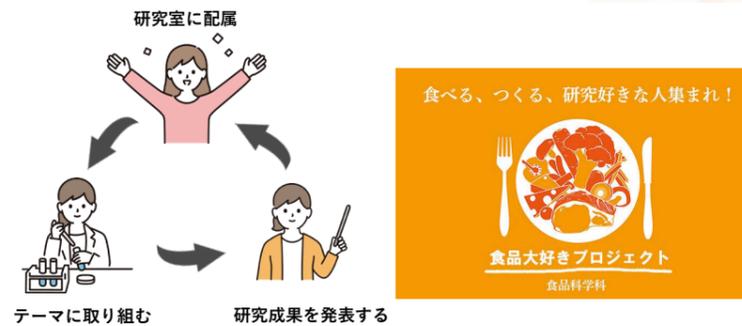


食品科学科  
松田 寛子 講師

### 早期ゼミ制度2期目がスタート

#### 1年次から研究ができる「早期ゼミ制度」

「早期ゼミ制度」とは、1年次後期から研究室に配属して研究活動ができる制度。半年に1回、研究発表会や研究室配属があります。同じ研究室で専門性を極めてもよし、別の研究室で新たな研究に挑戦するもよし！自分の可能性を広げられる環境があります。



#### 早期ゼミの主なテーマ

- ・オリジナル菓子作りの試作とその品質分析
- ・食肉調理による変化のメカニズムの解明や嗜好性の改良
- ・保存性の高い新しい食肉加工品の開発
- ・食肉に含まれる機能性成分のスクリーニングと評価
- ・食用キノコを用いた新たな発酵食品の開発
- ・微生物の分離と食品への応用 など

### 1期生は早くも2回目の研究室配属へ

令和3年度からスタートした早期ゼミ制度は、今年度から2期目がスタートしました。1期生は今冬に1回目の研究発表会を終え、進級し、2回目の研究室配属となりました。別の研究室に配属することも可能ですが、ほとんどの1期生が同じ研究室に配属しているそうです。新入生(2期生)の早期ゼミ配属は、9月頃の予定です！



▲農産食品学教室では、オリジナル菓子作りに挑戦しています。

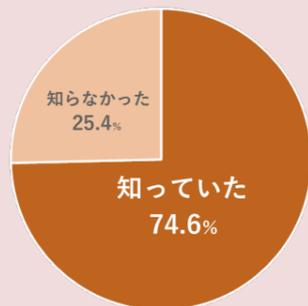


▲食品安全学教室の研究発表会。先輩たちの前で発表しました。

#### 新入生に聞いてみた！

Q.入学前から、「早期ゼミ制度」や「資格取得支援制度」を知っていましたか？

知っていた **74.6%**  
知らなかった 25.4%



※回答者：令和4年度入学生 67名  
食品科学科「学修支援システムフォローアップセミナー」で実施。

早期の研究と資格取得に意欲的な学生を応援し、その制度の魅力をさらに発信したいと思います。



食品科学科長  
松石 昌典 教授

### 「食」に関わる資格の取得を支援！

食品科学科では、令和3年度より「食」に関わる民間資格の合格者に対し、取得に関わる費用（講習会参加費・検定費など）を補助しています。また、各資格に対して資格担当教員を定め、学生へのアドバイスも行っています。

資格取得に関する記事はこちら▶



#### 取得可能な資格と合格者

- ・HACCP管理者資格 (28名)
- ・甲種危険物取扱者 (4名)
- ・フードサイエンティスト (43名)
- ・食品表示検定 (初級) (2名)
- ・フードアナリスト4級 (38名)
- ・食品表示検定 (中級) (1名)
- ・フードアナリスト3級 (1名)
- ・バイオ技術者 (中級) (6名)
- ・健康食品管理士 (4名)
- ・バイオ技術者 (上級) (1名)

※ ()内は令和3年度の資格取得者数

### 食品科学科の魅力を発信！

食品科学科では、学科の行事や取り組み、早期ゼミ生の様子を食品科学科公式SNSで発信しています。ぜひご覧ください。



▲Facebook



▲Instagram



▲Twitter

今年はこのメンバーで情報発信！



食品科学科  
松田 寛子 講師

食品科学科  
知久 和寛 准教授

食品科学科  
小林 優多郎 講師

## 6 生まれ変わる、付属牧場。

### 富士セミナーハウスがリニューアル！

富士セミナーハウスがこの度、新型コロナウイルス感染症対策の一環でリニューアルしました。

これまで宿泊したことがある方にとっては、びっくりするほど綺麗になっています！ぜひ実際に見てみてください！

#### 寝室が多床室一個室に！

これまで4人部屋だった寝室が、カプセルホテルのような個室になりました。ひと目を気にせず、ゆっくりと身体を休めることができます。



▲カプセルベッドは一人で寝るには十分な広さ。



▲カプセルベッドの中にはアラームと証明の調節、コンセントが一つついてます！



▲下段にもベッドがあります。



▲窓側には1人用のデスクを設置。すべての部屋についています。

### 教育と生産、両面を備えた牧場に

付属牧場は、これまで学生が実習や研究を行い、教育活動の場として活躍してきました。これからは研究成果を活かし、生産面でも幅広く活動していく予定です。



▲付属牧場HP



▲動物科学科の先生たちが富士アニマルファームについて寄稿しています(動物科学科HP)



# Congratulations on the AWARD!!

令和3年度の各賞表彰をご紹介。受賞者の皆様、おめでとうございます。

## 紫雲賞(ベストティーチャー賞)

日本獣医生命科学大学後援会の協賛事業で、本学の学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員および団体を表彰します。



動物医療コミュニケーション(獣医保健看護学科3年次 前期)  
獣医保健看護学科 講師 小田 民美



### 受賞理由

対面講義におけるグループワークを積極的に取り入れたことが、授業に対する高い満足度に繋がった。特にコロナ禍において人間関係の構築が難し

かった中、同級生との意見交換などの作業が、学生の学修意欲や大学への帰属意識を維持することに貢献した。



### 工夫していた点は?

コミュニケーションの授業ということで、説明ではポイントのみ解説し、多くの時間を少人数でのグループワークにして実践を重視しました。また、より身近に獣医療現場を感じられるよう、実際の症例を参考にしたケースワークも多く取り入れました。

なることから、コミュニケーション能力が非常に重要であることを繰り返し伝えました。コロナ禍で学生同士や教員とのコミュニケーションの機会が減少し、大学への帰属意識が低下している中で、グループワークを多く取り入れた学習機会は、学生たちにとってそれらを解消する貴重な時間となったようです。



### これからどんな講義を予定?

グループワークの学習はそのまま活かしていきつつ、学生たち個々の習得度にあつたフォローを行えるよう、個別課題での進捗確認や学修支援システムの機能をよりうまく使いこなせるようにしたいです。ケースワークについては好評だったため、さらに追

加で作成したいと思います。また、より多角的な視点で物事を捉えられるよう、グループ発表を通して全体で共有、意見を出し合う機会もさらに増やしていけたらと考えております。



▲飼い主役、動物看護師役、評価者に分かれ、動物看護師役が飼い主役から情報を聞き出します。最後はいくつかのグループが発表しました。



### 「動物医療コミュニケーション」とは?

獣医療コミュニケーションの基本的技術を身に付け、患者動物とその家族、そして獣医療チームのメンバーと、互いの立場を尊重した信頼関係を構築して、獣医療の場で適切なコミュニケーションを実践する能力を養う授業。

## 梅野信吉賞

日本獣医生命科学大学同窓会の協賛事業で、若手研究者の奨励を目的とし、顕著な業績を挙げ本学の名誉に貢献した教員を表彰します。

牛トロウイルスのリバースジェネティクスの確立  
獣医学科 准教授 氏家 誠



### どんな研究?

新型コロナウイルスの報道の中で「変異株」と言う言葉を聞いたことがあると思います。変異は、ウイルスの遺伝子にA、B、C、D...と蓄積していき、感染力を強めたり、ワクチンの効果を弱めたりすることがあります。この時、ワクチンの効果を弱める原因がAの変異なのかそれともBの変異なのか?を調べるためには、Aの変異だけを持つウイルスを人工的

に作る必要があります。このようにウイルスの遺伝子を改変し人工的にウイルスを作る技術を「リバースジェネティクス(RG)」と呼びます。ウイルスの中でも、コロナウイルスやトロウイルスのRGはとても難しいことが知られており、本研究では、世界で初めてトロウイルスのRGに成功しました。



### これからの研究の展望!

トロウイルス(ToV)とコロナウイルス(CoV)はよく似たウイルスですが、CoVに比べてToVの研究はとても遅れています。この技術を利用することで、ToVの病原性や増殖メカニズムなどの数々の謎が、分子レベルで明らかになるでしょう。また、牛ToVは世界中に蔓延し仔牛の下痢の原因となっています。この技術を応用する事で、新しい牛下痢ワクチンの開発も可能となり、家畜の公衆衛生に大きく貢献することが期待されます。



▲研究室での一コマ。



### あわせてCHECK!

大学報第74号では、研究についてもっと詳しく解説しています!▶



トロウイルス研究に関する論文はこちら▶



## 武蔵野賞

各学年各学科で、学業成績が特に優秀で、人物が優れている3名に対し、与えられます。

### 獣医学科

- 1年次 首席 中嶋 清葉さん  
次席 石原 彰さん / 甲斐 未波さん
- 2年次 首席 飯野 早貴さん  
次席 木下 萌さん / 野村 美由紀さん
- 3年次 首席 石田 樹さん  
次席 清水 幸奈さん / 瀧本 まどかさん
- 4年次 首席 池田 愛美さん  
次席 稲葉 嶺さん / 鈴木 友輔さん
- 5年次 首席 三反田 龍介さん  
次席 野原 はづきさん / 渡邊 萌さん

### 獣医保健看護学科

- 1年次 首席 齋藤 紬さん  
次席 菅原 莉子さん / 峯岸 咲弥さん
- 2年次 首席 池田 采佳さん  
次席 高橋 舞衣さん / 高橋 里帆さん
- 3年次 首席 長沼 美緒さん  
次席 小林 菜由さん / 武田 尚子さん

### 動物科学科

- 1年次 首席 佐藤 綾音さん  
次席 小林 菜由さん / 武田 尚子さん
- 2年次 首席 神尾 里佳さん  
次席 折笠 玲さん / 田中 美生子さん
- 3年次 首席 西田 貴司さん  
次席 池田 実園さん / 勝俣 みなさん

### 食品科学科

- 1年次 首席 萩原 湧太さん  
次席 櫻井 佳奈さん / 松井 智咲さん
- 2年次 首席 上中谷 萌々さん  
次席 河原 岳さん / 谷口 結菜さん
- 3年次 首席 谷内 亜優さん  
次席 石川 晏名さん / 高橋 このみさん

本学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」。獣医、獣医保健看護、動物、食品に関する専門職(スペシャリスト)の道を歩むことを目指す学生の活動と既に歩んでいる卒業生の活躍を紹介します。



—奥貫さんが動物看護師になろうと思ったきっかけはなんだったのですか？

小学生のころから動物が好きで、動物に携わる職業に就きたいと思っていました。モルモットや鳥、フェレットを飼っていたのですが、フェレットが突然大きな病気をしてしまいました。当時フェレットはまだ珍しかったようで、病院選びにかなり苦労しました。何件も問い合わせさせてやっと親身になってくれる獣医師と出会い、「全力で対応します」と言ってくれました。一生懸命治療していただいた甲斐もあり、病気が少しずつ回復して元気になり、寿命を全うすることが出来ました。その獣医師のように、命に対して誠実で真摯な対応がとれる大人になりたいと思ったのがきっかけです。

—そして獣医保健看護学科に入学されたんですね。そして卒業後、動物看護師としてずっと働かれています。

はい。ただ、結婚や出産を機にパートタイマーとして週2~3日働いていたのですが、2人目出産後に自分の病気が判明して、一度退職しました。「復帰するのは難しいかも」と思っていたのですが、院長や同僚のご厚意で3~4年前に復帰して、今は週3~4日、5時間ほどパートとして働いています。

—それは大変でしたね…。大きな病気をされて復帰は難しいと思っていたにもかかわらず、復帰を決意した理由はあるんですか？

やっぱり動物が大好きで、嫌いになることができなかったのが一番の理由でしょうか…。家にずっといるのは精神的にも良くないですし、社会復帰はしたかったのですが、最初は動物病院じゃなくてもいいかなと考えていました。でも、動物に直接触れ合える仕事がしたい、武蔵野国どうぶつ医療センターのスタッフが好き、仕事は大変だけれど楽しい、好きな仕事だからこそ続けたい、という思いが強かったので、復帰しました。

—職場環境は大切ですね。ちなみに、今はどんな業務をされているのですか？

まだ体力が追いつかなくて大型犬の診療補助対応はちょっと無理ですが(笑)、小型犬や猫は担当することもあります。

—お身体大切にされてくださいね。最後に、在学生へメッセージをお願いします！

多くの方が、何かしら興味があって選んだ大学ではないかと思うので、受けていて楽しい授業や実習がたくさんあると思います。私は長期休暇を利用し、牧場実習やダイビング講習などを受け、自分が興味のある事にはチャレンジしてきました。自分がどの職業に進みたいか悩んだ時もあったので、やってみたい事を先生に相談したり協力して貰ったりして色々な経験を積ませて貰いました。学生のうちに色々な経験する事により視野が広がり、自分がやりたい事が見えてくる事もあると思います。先生方も親切に向き合ってくれると思いますし、せっかくこのような大学に入学できているので、積極的に相談して意見を求めてチャレンジし

ていってほしいです。色々なやり方があると思いますし、やりたいことばかりではない学生の方もいるかなと思います。でも学生のうちにしか経験出来ない事はたくさんありますし、何よりどんなことにも自由にチャレンジできる期間でもあるので、沢山楽しい経験を積んで後悔なく社会人になって欲しいです。そして、自分の納得のいく好きな仕事を見つけられるよう応援しています。

—ありがとうございました！



▲今回はリモート取材をさせていただきました！

## 研究者の道を、志す。

食品科学科2年次  
吉留 瑞貴 Mizuki Yoshitome

—吉留さんは今、昨年度から始まった「食品大好きプロジェクト」の「早期ゼミ制度」を利用して、食品安全学教室でキノコの研究をしているんですね。キノコ、好きなんですか？

科学技術高校(東京都江東区)という、少し特殊な高校にいました。そしてその中でもさらに凝縮された人たちが集まる、科学研究部のキノコ班に面白い先輩がいたので、私もキノコ班に入り、キノコの研究をずっとしていました。

—キノコの研究をしていて、なぜ本学に進学しようと決めたのですか？

高校1年生の時に高校が主催で本学を全学科見て回るツアーがあり、そこに参加したのが最初の出会いです。そして2年生の時にオープンキャンパスに来て、「何やらキノコの研究をしている研究室が食品科学科にあるらしい」と聞きつけました。食品科学科について調べているうちに、「早期ゼミ制度」なるものが始まるらしく、1年生から研究ができると聞いて、受験を決めました。

—ちょうど良いタイミングで「早期ゼミ制度」が始まりましたね！

はい。研究が大好きなので、1年生から研究

室に所属できることは本当に素晴らしい制度です。卒業論文に他の人が約2年しか時間がないことに対して、私は3年半もかけて書くことができます。今は毎日研究室に行っています。

—今はどんな研究をしているんですか？

早期ゼミ生3人でキノコを用いた味噌やチーズなどの発酵食品の開発を行っています。また、それと並行してキノコが産生する糖類の分析も行っています。

—3月の中間発表会をたまたま拝見しました。当時1年生だったのに、すごく発表や資料が上手でしたよね!誰から教わったんですか？

高校生の時に高校生の定期発表会にたくさん参加していたので、自然と身につきました。科学の甲子園には生物代表で出場しました。発表した中で一番大きい大会だと、グローバルシンガポールでしょうか。

—おおお凄い…。そんな吉留さんですが、大学生になって努力していることはありますか？

常に手を動かし、実験をすることを心掛けています。私はまだ研究に関しては素人で、知識も十分ではありません。そんな私が良い研究

を完成させるには実験の回数を増やし、少しでもデータを多くすることが必要です。実験の隙間が開かないように、担当教員の知久先生と実験計画を立てています。



▲「食品科学科は学生と教員の距離が近いことが魅力」と語ってくれました。(写真右は知久准教授)

—最後に、どんなスペシャリストを目指したいですか？

研究に対して、情熱を持って真摯に向き合える研究者になりたいです。私の研究へのスタンスは結果至上主義な所があります。立てた仮説に対して積み重ねた結果を、より良い研究になるよう、面白いものになるように発展させられる人物を目指しています。

—ありがとうございました！



2010年3月 日本獣医生命科学大学  
獣医学部獣医保健看護学科 卒業  
2010年4月 たぐち動物病院(限・武蔵野国どうぶつ医療センター) 入社  
結婚、出産を経て現在に至る

## 好きな仕事を、好きな場所で。

武蔵野国どうぶつ医療センター  
動物看護師 奥貫 真梨子 Mariko Okunuki



令和4年度 入学式が行われました



4月6日に令和4年度 入学式が行われ、獣医学部180名、応用生命科学部163名、大学院29名を無事に迎えることができました。今年度で3度

目となったコロナ禍での入学式は昨年度と同様、学部ごとに分かれ、保護者や関係者の皆様には生中継をご覧いただく形式となりました。



▲令和4年度入学式式辞 (獣医学部)



▲令和4年度入学式式辞 (大学院・応用生命科学部)

人権教育ワークショップを開催しました



新入生を対象とした、学生同士の交流に加えコミュニケーション力の情勢と倫理面の指導を行うための「人権教育ワークショップ」が今年も行われました。例年と同じく今年も外部講師の先生にお越しいただき、皆で与えられた課題をこなし、大盛り上がりで終了しました。

富士アニマルファームが酪農教育ファーム認証牧場に認証



富士アニマルファームが、一般社団法人中央酪農会議が認証を行う「酪農教育ファーム牧場」として認証されました。これは、「酪農教育ファーム認証規程」により認証を受け、「酪農教育ファームファシリテーター」が酪農教育ファーム活動を行う牧場等のことを指します。

発酵バター入りニチジュウコンビーフ、「まちテナ西東京」(田無駅)でも販売中!



4月中旬より、西武新宿線田無駅改札横にあるアンテナショップ「まちテナ西東京」にて、大学オリジナル商品「発酵バター入りニチジュウコンビーフ」の取り扱いが始まりました。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

▲店長の中村さん。お店には西東京市周辺の素敵なお土産がたくさんあります!

各種試験結果

【第73回獣医師国家試験結果】

受験者数：82名
合格者数：77名
合格率(本学)：93.9%
※全国平均合格率(新卒)：92.1%

【2021年度認定動物看護師試験結果】

受験者数：103名
合格者数：101名
合格率(本学)：98.1%
※全国平均合格率：89.9%

【実験動物一級技術者認定試験結果】

合格者数：8名
※前年度の実技試験中止による卒業生3名を含む

【HACCP管理者資格認定結果】

資格取得者数：28名

【バイオ技術者認定試験結果】

●第30回中級バイオ技術者認定試験

合格者数：49名(獣医保健看護学科36名、動物科学科7名、食品科学科6名)

●第27回上級バイオ技術者認定試験

合格者数：18名(大学院獣医生命科学研究科1名、獣医保健看護学科2名、動物科学科15名、食品科学科1名)



速報! 令和3年度卒業生進路状況

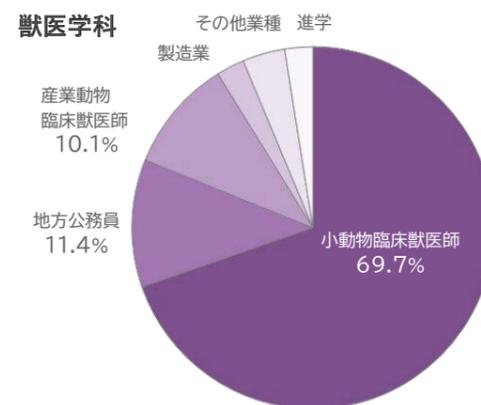
令和3年度卒業生の就職率は... 96.4%

獣医学科 97.3% 獣医保健看護学科 96.2%
動物科学科 94.7% 食品科学科 97.4%

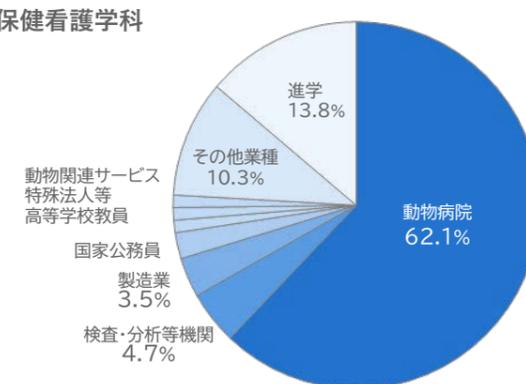


学科ごとの就職・進学先内訳

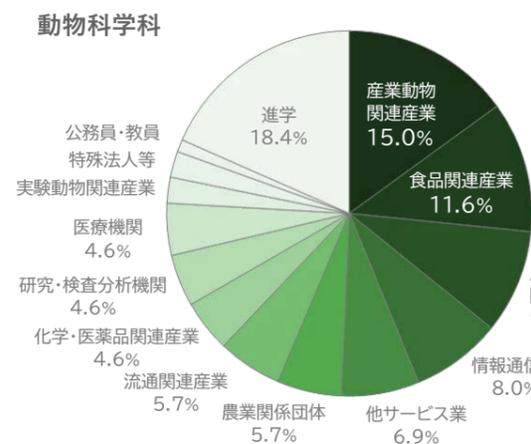
獣医学科



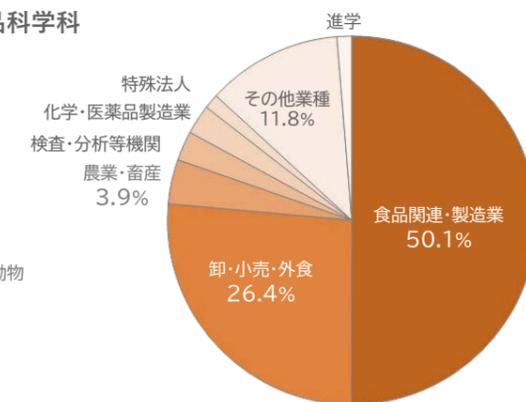
獣医保健看護学科



動物科学科



食品科学科



第18回日本獣医内科学アカデミー学術大会において大学院獣医保健看護学専攻博士前期課程1年次 小山薫さんが「JCVM2022看護アワード」を受賞

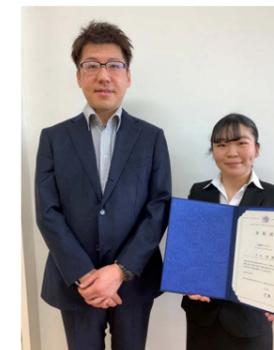
令和4年2月18日～3月21日にオンライン開催された、第18回日本獣医内科学アカデミー学術大会(JCVM2022)において、大学院獣医保健看護学専攻博士前期課程1年次 小山薫さんが「JCVM2022看護アワード」を受賞しました。

犬猫の糖尿病の管理は、食事管理やインスリン注射など自宅で飼い主に実施していただくことが多いため、本研

究の成果は、小動物臨床における治療的価値はもちろん、飼い主教育において有益な根拠になるものとして期待されます。
研究テーマ:糖尿病犬における新規動物用インスリン製剤の有効性の検討



詳細はこちら▶



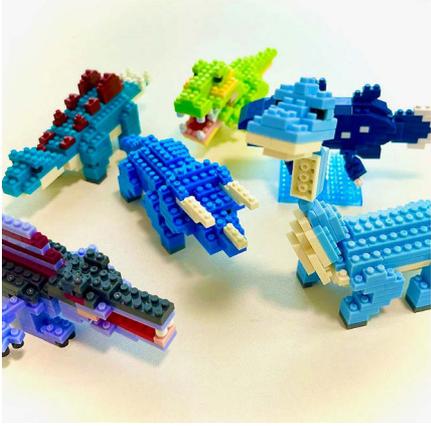
▲小山さん(写真右)と森昭博准教授(写真左)

# nichistogram

## #新しくはじめたこと

Related Hashtags: #投稿してくださった皆さん #ありがとうございます! #またよろしくお祈いします!

 nvl\_u\_2525



   #おうち時間 #プチブロック  
#ステイホーム

 my\_msk\_



   #実家の愛犬 #会えないから  
#毎日見れるように!

 jim\_u\_NVLU



   #新しく入りました  
#新入職員 #学生支援課

第78号表紙絵  
原 帆七海さん (動物科学科3年次)



日獣の多岐にわたる活動を1枚に収めたいという強欲さの元描き起こしました。

シェルターから歩み出す動物の行く先は明るいものに、冷たいと思われがち医療器具には温もりが寄り添うように、食物には温かさとそこに届けられるまでの人々の繋がり輪が宿るように心掛けました。

少しでも日獣の良さが伝わる絵になっていれば幸いです。

Hello, we are NVLU(ニチジュウ) -日本獣医生命科学大学報-第78号(2022年6月号) 2022年6月7日発行

協力(以下敬称略)/学生: 吉留瑞貴 卒業生: 奥真真梨子(武蔵野国どうぶつ医療センター)

教職員: 清水一政 鈴木浩悦 田中良和 藤澤倫彦 和田新平 竹村直行 植木美希 落合由嗣 田中亜紀 木原友子 松田寛子 小林優多郎 小田民美 氏家誠

Special thanks: 教務課 学生支援課 研究推進課 その他ご協力いただいた皆様ありがとうございました!

表紙/原帆七海

編集・発行/日本獣医生命科学大学 IR推進委員会(編集委員)松石昌典 近江俊徳 野瀬出 知久和寛 高橋勝 大沼友美 上野美可子 印刷/デジタルブレンド株式会社